

## 児童合唱団の指導体制について

### —西宮少年合唱団の場合—

江頭 義之

#### 要旨

昨今、全国的に各児童合唱団の団員数が減少傾向にあるなか、西宮少年合唱団は大人数<sup>1)</sup>の少年少女合唱団として活動を続けている。西宮市立の少年合唱団として文化振興財団によって運営されているが、音楽的教育見地からみても様々な特色があると想像される。筆者は2003年から西宮少年合唱団の指導員として指揮やピアノ伴奏をして合唱団の指導にあたっているが、あらためて西宮少年合唱団を様々な角度から分析し、その特徴と指導体制を明らかにした。

その結果、次の点が特徴、長所として見出された。西宮市の児童合唱団として市の行事に参加する演奏会が多いこと。指導員と保護者会、文化振興財団の3つの関係が円滑に機能していること。高校2年のリーダーたちを中心として団員たちの自主性が根付いていること。夏合宿などで合唱団団員たちが縦の関係を深め学年に関係なく親密なこと。普段通っている学校とは違う別の「居場所」となっていること。

キーワード：児童合唱、少年少女合唱団、西宮市文化振興財団、保護者会、中西覚

#### 1. 沿革（合唱団設立からの歴史と市の方針など）

西宮少年合唱団は、西宮市の青少年の文化活動振興の一環として昭和36年（1961年）10月に創立、男女112名の第一期生を迎えて、阪神間では初めての少年少女合唱団として産声を上げた。（当時の市長がウィーン少年合唱団に憧れ我が市にもと願ったそう。）以後、57年間合唱音楽の研鑽に努め、市内の各種行事への参加はもちろん、県下に全国に、また海外の少年少女合唱団との交流など、多彩な合唱活動を展開し続けている。ちなみに、合唱団名称の「少年」とは「少年期」という意味である。

- 1991年 西宮市教育功労賞受賞
- 2001年 ウィーン世界青少年音楽祭合唱の部第2位受賞
- 2002年 西宮市音楽特別賞受賞
- 2005年 欧州親善ジョイントコンサート参加
- 2010年 フィンランド児童合唱交流の旅
- 2014年 第3回フィレンツェ国際合唱フェスティバル  
児童合唱の部第1位受賞

#### 年間の主な演奏会

- (1) 市民コーラス大会
- (2) 夏季合宿（2泊3日）
- (3) 兵庫県児童合唱祭
- (4) ロビーコンサート
- (5) 市民音楽祭
- (6) 西宮キワニス・チャリティーコンサート
- (7) さよならコンサート
- (8) クリスマス音楽会（西宮ガーデンズ）
- (9) コーラスの広場
- (10) 定期演奏会
- (11) 全日本児童合唱連盟の演奏旅行

合唱団全体の中では、BC組<sup>2)</sup>と、A組<sup>3)</sup>、アンサンブルクラス<sup>4)</sup>に分かれる。練習時間は、BC組（13:00～14:00）A組（14:00～16:00）アンサンブル（16:00～17:00）

BC組（年少クラス）では、ソルフェージュがあり基礎的読譜力や視唱力を養う。また、各クラスとも合唱の練習前には「発声練習」がある。

#### 2. 運営体制（財団、指導員、保護者会について）

- \* 団則2（目的）：本団は団員の合唱技術の修得をはじめ、教養や協調性を養うとともに、演奏活動を通じて、本市教育文化の向上に寄与することを目的とする。
- \* 団則3（事業）：毎週土曜日の定例練習、夏季合宿練習、定期演奏会等ほか、2の目的達成に必要な事業を行う。

#### 【西宮市文化振興財団について】

- \* 名誉団長は西宮市市長で、西宮市文化振興財団が主催し、事務局を西宮市文化振興財団事務局内に置く（団則1）。
- \* 西宮市民会館や地域文化会館などの市立施設を練習場に利用しており、毎回の練習には市の職員が（保護者会役員と共に）事務や諸連絡などの運営を実施している。

#### 【指導員について】

- \* 指導員は団長、主任、指導員の計5名から成る。（平成29年度からは6名・写真1参照）
- \* 指導員の役割は、指揮、作曲、ピアノ伴奏、発声など。



写真1 西宮少年合唱団指導員（2018年）

#### 【保護者会について】

- \*保護者会役員は会長(1名)、副会長(3名・A組、BC組、メール担当)、会計(1名)、会計監査(1名)の計6名から成る。
- \*保護者会委員としてA組5名、B組3名、C組3名、計11名の保護者委員があり、各行事(合宿や演奏会など)に参加し団員のフォローをしている。

### 3. この合唱団の特徴

- (1)西宮市立の合唱団として、市の行事として出演する演奏会が多い。
- (2)保護者会の役員さんたちに様々な事務活動を協力サポートして頂いている。
- (3)小4から高2の8年間という長期の在団期間、地域としての友達ができる。
- (4)高校2年のリーダー(3人体制)が自ら主体的に団員たちをまとめている。
- (5)夏期合宿での部屋割りなどによって団員たちの縦の信頼関係が出来る。
- (6)数年毎に、海外へ交流演奏旅行に行く。
- (7)OB合唱団があり、卒団生有志が団をサポートしている。

### 4. 教育体制としての特徴

#### 【音楽(A)と、教育(B)という方針】

- (A)団長(中西覚)の音楽キャリアと人間的な指導力(カリスマ性)
- (A)指導者が一方的に教えるという形ではなく、団員たちが音楽を考え作っていく方針
- (A)学校教育の義務的、管理的組織の中でなく、自ら希望し自主的に音楽(合唱)を中心として様々な活動、広域の交流や体験が出来ること。
- (A)市の行事としての演奏会本番が多く、子供にとって一番の体験となる「本物の実践機会」が多くあること。
- (A)合唱団全般の方針として、基本的には合唱コンクールには参加しない。将来、専門音楽家を目指さなくて良いという、この2つの暗黙の基本方針がある。コンクール上位入賞の為に、或いは将来プロを目指す為の合唱団という立場は取らない。(但し、将来プロを目指すという団員が出てくるのは全然構わない。)これはまさに、団則の通り、音楽(合唱)を通して人格の向上、教養や協調性を養うということを目的とする合唱団である。
- (B)団員たちへのスローガンとして、「心の響きを歌おうよ」「気が付き人間になろう」
- (B)団員たちにとって、学校以外の中で自由に選択できる「居場所」が出来ること。(例えば、学校の中で友達関係が良くない立場にある子供にとっては、時に非常に救いの場所と時間になる。)
- (B)保護者会の役員のお母さん方が絶えず団員たちと接触しているため、家族的なムードが生まれ、団員(子供)たちの或る意味「逃げ場の場所」にもなっていること。
- (B)指導員が音楽指導に専念できる立場にあること。出席や提出物を取ったりする、いわゆる一般的な学校教員の雑務が少ないこと。その為に、指導員が団員を管理的に指導したり強制的な態度で叱ったりすることがないということ。良い意味で団員たち

の判断に任せる方針。団員にとって管理されているという強制感がほとんど無く、自分たちの自由な選択と意志で合唱団に参加しているという自覚が芽生える。

### 5. 合唱団団長へのインタビュー<sup>5)</sup>

質問1:西宮少年合唱団が昭和36年(1961年)に創立されたということですが、当初はどのような感じでしたか?

答:こどもの感じは今とあまり変わりません。歌いたいこどもが集まっています。時代の流れで大人の社会はどんどん変わっていきただけであって、音楽を好きなこどもは今も健在です。

質問2:保護者会が途中から出来たということですが、その経緯を教えてください。

答:当初は団員の子供たちは名札を付けていて、机の上に先生がそれを並べ、来た子供たちがそれを取って残ったものが欠席だという形で出席をとっていた。また写真の申し込みなども先生(指導員)がやっていたんですが、そういう状況を見かねて保護者会が立ち上がり、先生たちの雑用を引き受けようということが出来上がりました。

質問3:中西先生にとって、西宮少年合唱団の教育方針というのは、どのようなものでしょうか?

答:感性豊かで想像力を持ち、良い判断が出来る人になってほしい、というのが願いであり、その線に沿って指導していきたいと思っています。だから、これはしてはいけないと言うことは絶対言わない。よほどの事がない限りしてはいけないということはない。

質問4:中西先生から見た、西宮少年合唱団の特徴、長所短所はどのようなところでしょうか?

答:音楽的なことを言うと、美しいハーモニーが奏でられるということ、読譜力があるということ、この二つが西宮少年合唱団の特徴であり長所であろうと思います。こどもたちにとっては、それなりに自主性が育っているということ、それが大きいと思います。短所はあまり思いつかないけれど、あえて言うと、なかなか全員が揃わないというところが残念です。

質問5:来年3月で、第57回目の定期演奏会になりますが、今後の西宮少年合唱団に対して、更なる展望を教えてください。

答:基本として、子供と一緒に音楽を作っていくことをずっと思っていますが、でも希望とすれば、ひとり一人の実力をもっとつけて、いつでも自信を持って歌えるように勉強してほしいということが大きな願いであり、また更なる高みへ押し上げたいと思っています。

### 6. アンケートによる合唱団員たちの意見

実際の西宮少年合唱団の団員にも意見を聞いたほうが多角的な特徴が分かると思い、現役の合唱団員へアンケートを実施した。アンケート用紙に記した文言は以下のとおり。

『西宮少年合唱団について、あなたが日頃感じている西宮少年合唱団の特徴(長所・短所など)があれば教えてください。また、こ

うしてほしいという希望でも結構です。』

希望者のみでよいということでアンケート投書を受け付けたところ下記のような意見の投書が寄せられた。



写真2 西宮少年合唱団

- A：(長所) 学年関係なく話せること。声の統一感がある。合宿があって、そこで仲良くなれる。リーダーが「静かにしよー」と言われたらすぐに静かになるところ。たくさんの発表の場があるところ。作曲した先生に毎週教えて下されるところ。(短所) 意外とみんな内気。リーダーがいないとまとまらないところ。(中2アルト)
- B：西宮少年合唱団の長所は、総員が100名を超えているにも関わらず、いつもほのぼのとした温かい雰囲気があるところ。また、男女、学年を越えて一緒に練習をしているので、人脈が広がります。また、他ではできない貴重な体験ができ、その後の人生において武器となるような経験をつくる事ができます。・・・希望は、オーケストラとコラボとかできたらいいなと・・・。(高1メゾソプラノ)
- C：(長所) ボイストレーニングに力を入れている。人数が多いから人間関係を伸ばすこともできる。《他の合唱団と比較して》元気よりも響きを重視している。表情を豊かにして歌っている(気がする)。(短所) 高2先輩に頼ったり、返事も高2がしてからしてしまっている。これは自分が「気がつき人間」になったらいいと思う。それは、合唱団以外でも返事をしたらすぐ返事ができると思うから。常に学校などでも返事をする。(小6メゾアルト)
- D：年齢関係なく仲がいい。普段の学校のような先輩と後輩というかたい上下関係はあまりなく、ちっちゃい子ども友だちのように仲良くなれる。テスト期間など、しんどい時うたっている間は忘れられる。(高1メゾソプラノ)
- E：パート、学年関係なく、みんな仲が良い！(小6メゾアルト)
- F：みんな歌うことが好き。向上心がすごくある。みんな仲が良い。(小6メゾアルト)
- G：(長所) 挨拶の声大きい人が多い。周りに気遣える人が多い。(高1アルト)
- H：学年関係なく、みんな優しく、楽しいと思えるところ。(中1メゾアルト)

## 7. まとめ

「西宮少年合唱団の音楽教育体制について」その特徴をまとめると以下ようになる。

- (1) 創立以来57年となる市立の少年少女合唱団であるため、市の行事への参加演奏が非常に多く、子供にとって本物の音楽体験が得られる。
- (2) 文化振興財団、指導員、保護者会が一体となって機能しているため、大所帯であるにもかかわらず、運営や協力体制が良好である。
- (3) 合唱団の中での縦の関係(小4～高2)がお互いの交流と協調性を深めている。また、団員のリーダーが中心となって自主的に運営していく良い伝統がある。
- (4) 様々な団員がいる中で、合唱団は「居場所」となっている。また、音楽のみならず、合唱団の中で、様々な状況での体験や交流が子供達の成長の糧となっている。

## 註：

- 1) 2018年現在で約160名の団員が在籍している。
- 2) BC組は、小4から在団2年までの年少クラス。
- 3) A組は、在団3年以上のクラス。
- 4) アンサンブル組は、A組で中3以上の希望者から成る。
- 5) 2018年10月10日、中西団長宅で筆者がインタビューを行った。

## 引用参考文献

- 西宮少年合唱団 創立50周年記念誌 (1961年～2012年)  
「50年のあゆみ」(2012年3月発行 西宮市)